

## 理事長所信

## 報恩謝徳

【感謝の心が未来を創る】

2017年度理事長(予定者) 池元 弘行

## 1 【はじめに】

2 私は四十歳を前にして人生を振り返ってみると、大きな二つの転機がありました。

3 ひとつ目の転機は二十二歳の時、大病を患いました。突然の命の危機に直面し、失意の底  
4 に落とされた私を救ってくれたのはかけがえのない家族と、そして友人でした。人は一人では生  
5 きて行けず、生かされているのだと、私自身の考えを思い直す良いきっかけになったのではな  
6 いかと改めて感じています。

7 私は昔から父親に教えられてきた言葉があります。

8 「人に何かをしてもらった恩は忘れず全力で返せ。しかし見返りは求めるな。」

9 私は病を患い初めてその言葉の大切さを考えるようになり、人に対する感謝とその恩に報い  
10 ることを忘れずに生きて行こうと誓いました。

11 ふたつ目は三十五歳の時、近江八幡青年会議所に入会した時です。まちづくりに全力で取  
12 り組み、その過程が辛くても成し遂げるメンバー、事業が終わった時の仲間と地域の人達の笑  
13 顔。これまで私が生きて来た世界とは全く違う素晴らしい光景があり、この青年会議所に入った  
14 ことは私の人生の中で誇れるものの一つとなったことは間違いありません。

15

16 時として仕事に追われ、青年会議所運動・活動に煩わしさを覚える時があります。しかし青  
17 年会議所という存在があったからこそ、かけがえのない仲間へ感謝する大切さを学ぶことができ  
18 ていると実感し信じています。人が人を想う心は優しさを生み、守るという感情を育みます。そし  
19 て、人々が願う幸せは、人の成長とそこに暮らす「まち」を強くさせます。その想う心と願う幸せを  
20 共に育み合うことで「明るい豊かな社会」の実現に近づくことが出来るのです。

21

22 私は2017年度理事長として誓います。

23 本年に迎える四十歳で卒業という限られ残された時間を、自身のため、まちのため、近江八  
24 幡青年会議所のために使い、まちを元気にする気概、人に対する感謝の心を次代につなげて  
25 いくことを使命に行動し、果敢に挑んで参ります。

26

27 戦後焼け野原の中「新日本の再建は我々青年の仕事である」との尊い志のもと、青年会議  
28 所の火が灯りました。その想いは全国へ伝播し346番目の青年会議所として1967年6月10日  
29 この地に近江八幡青年会議所が誕生し、現在に至るまで明るい豊かな社会の実現を目指し、  
30 一年一年真剣に地域に密着して数多くの運動・活動を行ってきました。

31 時代は流れても先輩諸兄より受け継いできた、愛する我々のまちの未来を切り開いていく気

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

32 概は変わることは無く、決して途絶えることはありません。しかし、我々の活動地域である近江八  
33 幡市・竜王町には解決すべき問題を有しており、少子高齢化や昼間人口の減少、進学、就職  
34 に伴う若者の人口流出、地域資源の有効活用、社会保障費の増加や安定した雇用の促進が  
35 挙げられ、解決すべき喫緊の問題として竜王町における消滅可能性自治体問題があります。

36 今地域に求められていることは様々な問題に解決の糸口を見出し、何が必要かを捉え行動  
37 することです。今の時代を検証し未来を見据える本年の運動・活動は、近江八幡市・竜  
38 王町に持続可能性を見出します。

39

#### 40 【広報戦略委員会】

41 近年の情報技術の多様化は目覚ましく、電子媒体が日進月歩で進む現代社会において、  
42 青年会議所運動・活動を発信するためにも、我々の想いや取り組みを地域の人々にご理解と  
43 ご協力をいただけるようにビジョン化し、広報活動の手法や共感が得られる内容を模索し発信  
44 しなければなりません。

45 我々の住まう地域には昼間人口の減少や人口流出が大きな問題となっており、持続可能な  
46 地域の発展には地域の特色を発信し、地域の内外より共感してもらうことが重要になります。我  
47 々の地域には伝えるべき多くの景観や自然、歴史や伝統、特産品などの魅力溢れるものが多  
48 く存在し、これらをより広く魅力的かつ効果的に発信していく必要があります。まずは、地域に  
49 根差す団体として、近江八幡青年会議所の存在意義を広く伝播するため、地域に飛び込みし  
50 っかりと調査研究を行い、地域における認識の現状とより向上させるための改善点の調査活動  
51 を実施します。そして、広報活動をするにあたり、どうしても活用したいのがインターネットによる  
52 広報です。スマートフォン等の普及により、いつでも、どこでも、誰でも地域を発信することがで  
53 き、それは行動する力に匹敵するほどの可能性を秘めています。それらの電子媒体を有効活  
54 用し、各委員会の目的を達成するために連携し、おもしろくて分かりやすく継続的に見たくなり  
55 、共感が得られる戦略的広報を実施します。さらに、組織内での情報共有やスケジュール管理  
56 方法を見直し、効率的・経済的に行うことで組織としての成長にも努めて参ります。また、我々  
57 がどれだけまちのことを深く考えようとも、どれだけ素晴らしい事業を行っていたとしても、地域の  
58 方々に伝わらなければ我々の運動・活動に対し共感されることはなく、団体として存在意義を  
59 見出すことはできません。だからこそ、このまちに住まう方々に多くの賛同をいただき運動・活動  
60 を広めるためにも、活動目的を明確にし、常々からより効果的・効率的に情報発信を行い、我  
61 々のビジョンを地域の方々に魅せることで近江八幡青年会議所の存在意義が広く伝播すると  
62 確信しています。

63 我々、近江八幡青年会議所は、地域の人々とのつながりと協力の中で運動・活動を行うこと  
64 ができているということをしっかりと認識し、感謝の心を持って大きく楽しく発信して参ります。

65

#### 66 【会員拡大委員会】

67 近江八幡青年会議所は創立されてから五十一年という長い歴史の中で、市民運動の先頭  
68 に立ち「明るい豊かな社会の実現」に向け事業を実施して参りました。今まで築き上げてこられ  
69 た先輩諸兄の想いを受け継ぎ、未来へつないでいくためにも、一人でも多くのまだ見ぬ同士と

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

70 出会い、我々のまちを創造する新しい力を取り入れ組織力を高めていかなければなりません。  
71 しかしながら、青年会議所には四十歳で卒業しなければならない規則があり、近江八幡青年会  
72 議所は会員減少という解決すべき問題が常態化しています。

73 私は明るい豊かまちづくりを行うにあたり数は大事であり、一人の思いより、大勢の思いの方  
74 が地域に届くと考えています。しかし、入会の対象者は誰でも良いとは考えておらず、自身が  
75 住まうまちを好きな人、まちが良くなって欲しいと願う人であり、一人でも多くの想う心が必要不  
76 可欠です。青年会議所に入会される方には、入会にあたり様々な理由があるでしょう。私は当  
77 会の代表として、「仕事につなげたい」「自分のスキルアップにつなげたい」「友達を作りたい」そ  
78 のために青年会議所運動・活動をして良いと考えます。当初の目的は様々でも、メンバーは  
79 いつしか「まちのために何かしたい」「自分のため、家族のために何かしたい」と考えるようになる  
80 からであります。

81 そして、会員拡大活動において成功の鍵は、メンバー全員で拡大活動をすることであり、そ  
82 のためには、拡大活動をするメンバーが青年会議所運動・活動に魅力を感じていなければ仲  
83 間を増やしたいとは考えることはなく、自信をもってまだ見ぬ同士に話すことなどできません。ま  
84 ずは、メンバー全員が近江八幡青年会議所の現状を知り、情報を共有し拡大に対する意識を  
85 変えることが重要です。

86 また、現在の青年会議所全体でも圧倒的に女性会員が少ない中、「男女同権」と言われる国  
87 際社会において男性目線のまちづくりだけではなく、女性目線のまちづくりも必要であります。  
88 一人でも多くのメンバーが集えば様々な視野が広がり、組織自体に活気が溢れ、志高いメンバ  
89 ーが切磋琢磨することによって「明るい豊かな社会の実現」に向かって行けるものと確信してい  
90 ます。

91 先輩諸兄が築いてこられたつながりに感謝し、感謝から沸き起こる想いを力に変え、メンバー  
92 全員で力を合わせこのまちを良くしようと想う志高い青年を一人でも多く募り、会員数 33% 以上  
93 の拡大を行って参ります。

94

#### 95 【地域活性委員会】

96 我々の住まうまちは、地域の魅力と人々の魅力に満ち溢れた非常に高いポテンシャルを持った  
97 まちであると言えます。しかしながら、私たちの周りにある地域資源はまだまだ埋もれており、ま  
98 ちの魅力として十分に活かし切れていないのが現状です。魅力溢れるまちづくりを行うためにも  
99 、あらゆる分野での秘められている地域資源の本当の価値を理解し、我々の力でさらに磨き上  
100 げることで、地域課題を解決できる経済的活力ある魅力を開拓します。また、近年では我々の  
101 活動地域において、八幡てんびん祭りの不開催や竜王町の夏祭りが二年に一度になるなど、  
102 地域のコミュニティが減少傾向の局面を迎えております。しかし、これからの地域社会において  
103 「人」と「人」が互いに思いやり、成熟した愛郷心をもつコミュニティは無くてはならない物であり  
104 ます。

105 まちづくりは人づくり、人が地域を創り、地域が人を育てます。誰かに何かを与えるためだけ  
106 の奉仕活動ではなく、市民を巻き込み、地域の一人ひとりが地域社会を形成する一員であるこ  
107 とを自覚し、「自分たちのまちは自分たちで創る」という意識を確立することができる事業を展開

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

108 しなければなりません。

109 私たち青年会議所はまちづくり団体であり、地方創生の機運が高まる昨今において、市民か  
110 ら本当に求められているまちづくりに取り組まなければなりません。それは、どんなに高い理想  
111 を掲げ声にしても、地域に受け入れられることができなければ自己満足な活動になってしまうか  
112 らです。今一度、地域の現状や課題をしっかりと調査研究し、まちづくり運動に対する強い思い  
113 と説得力を兼ね備えた上で、市民・行政・各諸団体とより強固な信頼関係を築き上げ、市民が  
114 本当に求めている、人が集まり地域を活気付けられる時代に則したコミュニティを創り上げ、継  
115 続し発展させ滋賀を代表するコミュニティを創造できれば地域活性化につながると確信してお  
116 ります。

117 青年会議所は手法や枠組みにとらわれることなく、様々な方法でまちを創造していくことがで  
118 きる団体です。市民の皆様、各諸団体の皆様のご協力に感謝し、その感謝を原動力に地域と  
119 行政・各諸団体の共感を集め、能動的意識を持った地域の人々全体が一体となり、地域を活  
120 性化していける青年会議所だからこそできる運動を行って参ります。

121

#### 122 【まちの調査・特別委員会】

123 我々はこの地域に住む一市民として、このまちのことを本当に知っているのでしょうか。我々  
124 は青年経済人として、まちづくり団体として、このまちがいかにして維持され発展しているのか理  
125 解しているのでしょうか。地方創生の機運が高まる昨今において、明るい豊かな社会を創ろうと行  
126 動している我々こそが、行政がどの様にまちづくりを行っているのか理解しなければ、行政と連  
127 携し、市民が本当に必要としている時代に則した事業を構築することはできないと考えます。

128 現在、我々の活動地域が抱える様々な問題が顕在化していく中で、問題の予防や解決に  
129 つなげるためには、活動地域の財政を深く調査し、我々の血税を何に使うべきか、他地域にお  
130 ける全国の成功している市政町政の取り組みの調査から学ぶとともに、我々の地域と比較考察  
131 する必要があります。そして、これらの運動が我々の今後の事業につなげるのが地域の発展  
132 に寄与すると確信しております。

133 また、目まぐるしく移り変わる社会情勢の中、青年会議所運動・活動を展開して行く上で様  
134 々な情報を取り入れ、刻々と変化するニーズを捉えながらも不変の価値観を基に変化し対応し  
135 ていかなければなりません。まずは、日本青年会議所の名代でもある滋賀ブロック協議会と近  
136 江八幡青年会議所との情報や状況を共有し相互理解を深め、我々の活動地域における調査  
137 結果を滋賀ブロック協議会に投げかけ、新しい発想や違う視点からのまちづくり・ひとづくりを学  
138 ぶとともに、各地青年会議所の同士との絆を強固にすることが我々の成長につながると考えま  
139 す。

140 そして、次期に担う予定であるブロック大会に向け、我々の活動地域の魅力をまとめ県内11  
141 LOM に伝播します。

142 青年会議所を通じて、地域行政との相互理解によって、我々は市民町民としても力強く成長  
143 することができ、地域の人びとやまちの更なるの活力につながります。市政町政に一步踏みこま  
144 んとする自身を奮起させ、人々に感謝の心を込め、多くのことを地域の人々に還元できる活力  
145 の源となり運動を行って参ります。

146

147 **【未来創造委員会】**

148 びわ湖を抱く商人まちと、豊かな自然がきらめく農業盛んなまち、歴史的建造物が点在し、  
149 自然が調和するこの地域は全国的有数の魅力的なまちです。しかしながら、そんな私たちの地  
150 域においても少子高齢化や若者の流出などにより市民は将来に不安を感じているはずで  
151 中でも、今後三十年間で二十歳から三十九歳の人口が五割以上減少することを指標とし  
152 、少子化と人口減少が止まらず存続が危ぶまれると指摘された896市区町村の「消滅可能性  
153 自治体」の中に、我々の活動地域である竜王町が含まれており、我々はこの問題に対し直ちに  
154 行動に移さなければなりません。

155 まず、地域に飛び込み竜王町の現状や人口減少の原因をしっかりと把握し、問題に解決  
156 の糸口を見出し、行政や地域が本当に望んでいる事業を展開します。

157 そして、近江八幡青年会議所は近年の拡大成功による新入会員の増加と、JC歴の長い会  
158 員の卒業によりメンバーの半数以上が入会歴三年未満という現状であり、その多くに求められ  
159 る役割や責任は大きくなってきています。だからこそ入会歴の浅いメンバーに青年会議所運動  
160 ・活動意義への理解を深める必要があります。そのためには JC の魅力の一つでもある京都会  
161 議やサマーコンファレンス、全国大会にて実施される各種事業に多くのメンバーが参加し、意  
162 義深い多くの学びを得るために、それぞれの魅力や趣旨を調査し、全会員へ発信することで一  
163 人でも多くのメンバーに青年会議所の理念に共感していただきます。

164 さらに、我々は地域の青年経済人として、また企業の経営に携わる者として地域の誇りとなる  
165 ような人材にならなくてはなりません。そのためには、我々が感謝の気持ちと強い信念を持った  
166 まちのリーダーとなり、地域の模範的行動を取らなければなりません。そして、理想とするリーダ  
167 ーが地域に溢れることで地域経済の活性化へとつながり、さらに魅力的なまちになると確信して  
168 おります。

169 明るい豊かな社会の実現に向けて、志を同じくする者が相集い力を合わせる、それが青年会  
170 議所であり、まちを牽引して行く我々が、互いへの感謝の思い忘れずに行動に移す。相手  
171 を思いやる気持ちは必ず伝わり、その輪が強くなれば揺らぐことのない深い絆を持った近江八  
172 幡青年会議所へとなり、一つとなった我々の声は必ず地域に届くと確信し運動を行って参りま  
173 す。

174

175 **【財政・規則事務連携会議】**

176 近江八幡青年会議所は、「明るい豊かな社会の実現」に向け長きに亘り地域に根差し、多  
177 くの市民町民とともにまちの活性化を担う組織として数々の運動・活動を展開して参りま  
178 した。その運動・活動を支えてきたのは先輩諸兄の公明かつ健全な財務運営がなされてい  
179 たからであり、我々は多種多様に変化する現代においても柔軟に対応できる運営を行う必  
180 要があります。

181 一般社団法人格を有する団体としてコンプライアンスを徹底する体制を確立することで  
182 、地域からの信頼に応えられる強い組織を作り上げなくてはなりません。また、組織の土  
183 台ともいえる事務局には、理事会をはじめとする各会議や組織運営において規律ある正確

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

184 な運営と効率化を執行部とともに実施すると同時に、各委員会が実施する事業構築の根本  
185 を精査します。

186 そして、この財政・事務連携会議では J C 歴の浅いメンバーにコンプライアンス・財政  
187 チェックなど議案書に向き合う場として機能することで、未来の委員長候補者への育成に  
188 つなげます。さらに、ゆるぎない組織を作るために近江八幡青年会議所の絆をさらに深め  
189 メンバー同士のつながりを強固にすることで、今後五十年・百年先まで続く力強い組織に  
190 なることを確信しております

191 盤石な土台の下支えがあるからこそ我々は安心してまちづくり運動を行うことができ、本年も  
192 盤石で円滑な LOM 運営が成り立っている事に感謝し、共に経費削減を模索し、財務体制の  
193 更なる強化を進めて参ります。

194

#### 195 【結びに】

196 我々が今、この時代を創り上げて行く上で最も大切なのは、感謝の想いを持つことではない  
197 でしょうか。家族のために、仲間のために、地域のためになど様々あるでしょう。では、どうすれ  
198 ば人のことを考えられるのか。それにはまず自分の言動や行動を顧みること。次に、人の考えな  
199 どを受け入れられるように視野を広げること。そして、自分の幸福だけでなく、人の幸福、社会  
200 全体の幸福を考え、人のために行動することに喜びを感じられる人間になること。最後に、自分  
201 が生かされていることに感謝することが大切なのだと私は信じています。

202 人生はたった一度しかありません。だからこそ二十歳から四十歳という輝かしいこの時代を生  
203 きる我々にしかできないことがあります。それは、青年経済人として価値のある青年期をこの青  
204 年会議所で過ごすのであれば、我々が今できることを全力で考え、自身に限界を設けることな  
205 く、一歩ずつ確実に行動し続けることであります。その結果、近江八幡青年会議所は地域の方  
206 からの信頼を集め、地域から更に必要とされ、この近江八幡市・竜王町が明るく豊かなまちに  
207 なり続けると確信します。

208 これまで授かってきたご恩と、全てのつながりに感謝すると共に、市民の皆様の期待に応え  
209 ることをお約束し一年間、全力で邁進してまいります。